



拠点長: 細井浩一

○文化研究資源のデジタル・アーカイブによって、デジタル・ヒューマニティーズ型日本文化・芸術研究の加速化を実現し、かつオンライン・デジタル研究環境を全世界に提供する。もって、各国に散在する日本文化研究拠点の活性化と連携を図り、日本芸術・文化研究の強化と普及を目指す。

## 研究所の概要

研究分野: 文化情報学、及び情報学、地理学、芸術学、歴史学、文化財学

研究者数: 31人(令和元年10月1日現在)

実績: 欧米の博物館・美術館等に所蔵される文化資源(美術・歴史的資料)の網羅的なデジタル化を継続的に推進している唯一の拠点。浮世絵ポータルDB(606,718件、3,367,463 PV)、古典籍ポータルDB(213,336件、3,089,356PV)など、世界最高峰のDBを構築し、大英博物館やメトロポリタン美術館など世界を代表するミュージアムへ基盤環境を提供、展覧会などの研究活動を底支え。インドネシア・ポロブドゥール寺院など、アジアの世界的文化遺産・文化財のデジタル・アーカイブも加速的に推進。各国文化省レベルとの共同研究を実施。

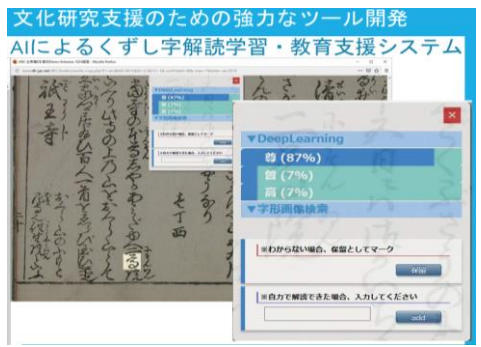
## 当該研究所の現状分析

日本文化・芸術を対象とするデジタル・アーカイブでは、最大規模の研究活動をしている研究拠点である。全世界的に進展する文化資源デジタル・アーカイブのなかでも、国際的にも高い評価を受けている。一方で、

- 日本文化を対象としているため、英語等外国語による情報発信に弱点があり、これを強化する必要性がある。
- 海外の研究組織・個人との1対1での連携・共同が多く、海外の組織間を連携させるハブとなる必要性がある。

## 機能強化を図る取組

- 英語を第一言語とした情報発信により、日本研究に携わる者以外の研究者らとの共同も視野にいれる。
- 地理的制限を超え、デジタル空間上での研究活動をより効果的に進められる共同研究のためのオンライン型研究スペースを開発し、運用をスタートする。
- 「くずし字解読支援システム」や古地図整形機能など、AIやデータサイエンスを活用して、人文研究を強力に支援するシステム・ツールの開発・提供



## 機能強化により期待される効果

- 海外研究拠点同士の連携を強化し、研究効率の大幅なアップを図る。日本文化研究の枠を超えた、国際的文化研究、情報学での応用、商用・非商法を含む文化資源企業など幅広い分野との共同化。
- 海外で活躍する日本文化研究者と若手研究者とが、国籍や国境・地域を問わず共同研究を実施する機会を大幅に伸長。
- 「世界中の中の日本研究」という国際的な目的・意義を明確にした研究者の育成。
- デジタル技術によって、沈滞する人文学研究(ヒューマニティーズ)の手法を劇的に変え、日本文化以外の分野にもデジタル・ヒューマニティーズ型研究を進展。